

南本牧ふ頭運航調整に関する確認事項（ガイドライン）

1 事前に株式会社東洋信号通信社（以下、「東信」という）に提供する情報

「根岸湾運航調整に関する確認事項（以下、確認事項という）」の3を基本とします。

それに加えて、船舶代理店等は、バース配船予定図（以下、「配船図」）（内航船を含む全ての船舶）を提供します。

※ 配船図は、内外航船全ての着岸日、着岸バース位置、先船と後船にある関係が図面から判断できる内容とします。

※ 着岸前日の16時頃までに東信へ配船図を提出します。

※ 着岸前日の配船図の提出後に変更、または追加があった場合は、最新の配船図を東信へ提出します。

2 タグボート及び綱取りボートの配備

水先人が乗船しない船舶の船長は、「タグボート」「綱取りボート」をできる限り要請することとします。

特に、強風に圧流され、港湾施設への接触や他船の航行を妨げる等の事案が発生していることから、最新の気象情報を把握するとともに、代理店又はターミナルオペレーターの助言に従って、適切に「タグボート」を要請することとします。

3 運航調整

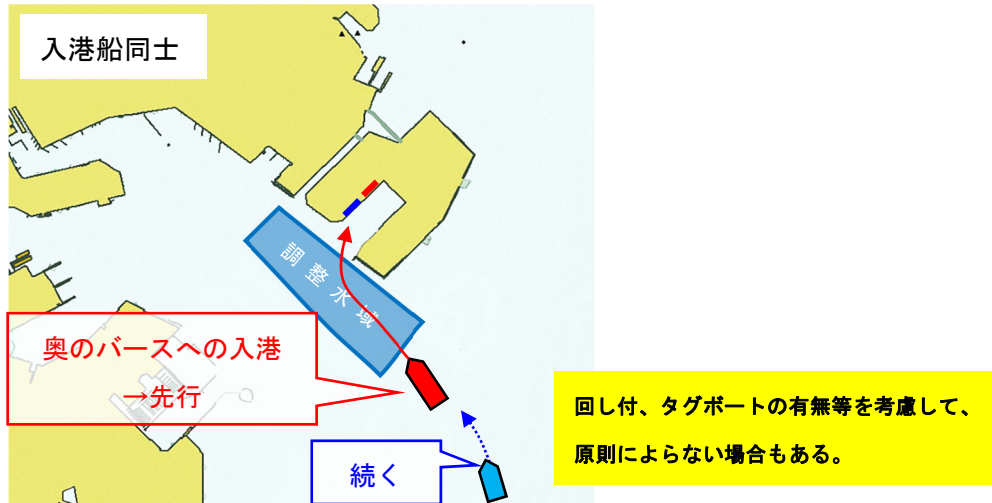
確認事項の4を基本とします。

4 南本牧ふ頭を利用する船舶の調整（基本的な考え方）

原則として、南本牧ふ頭水域内で行き会わないよう調整します。但し、対象船舶同士が行き会いの合意を得ている場合はこの限りではありません。

① 入港船同士の競合

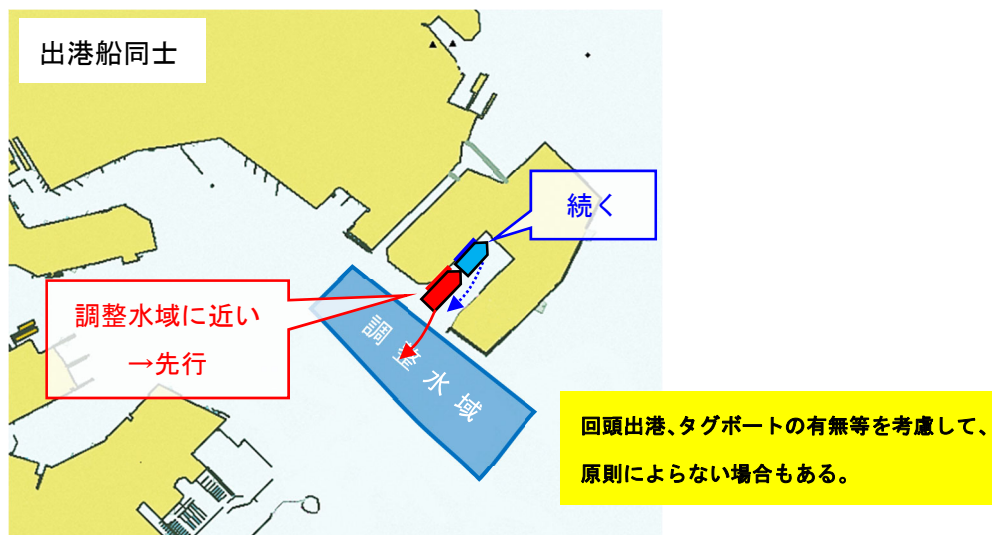
- ・原則として、奥のバースの船舶が先に入港します。但し、回し付、タグボートの有無等を考慮して、原則によらない場合もあります。



図は海上保安庁刊行の航海用電子海図を利用して東洋信号通信社にて作成。本図を航海に用いないこと。

② 出港船同士が同時刻の競合

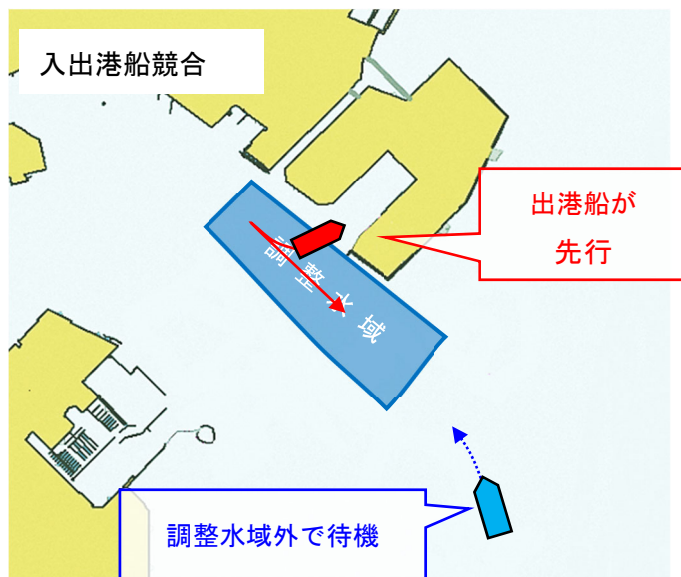
- ・原則として、調整水域に近い船舶が先に離岸し、奥から出港船は後に続くものとします。但し、回頭出港、タグボートの有無等を考慮して、原則によらない場合もあります。



図は海上保安庁刊行の航海用電子海図を利用して東洋信号通信社にて作成。本図を航海に用いないこと。

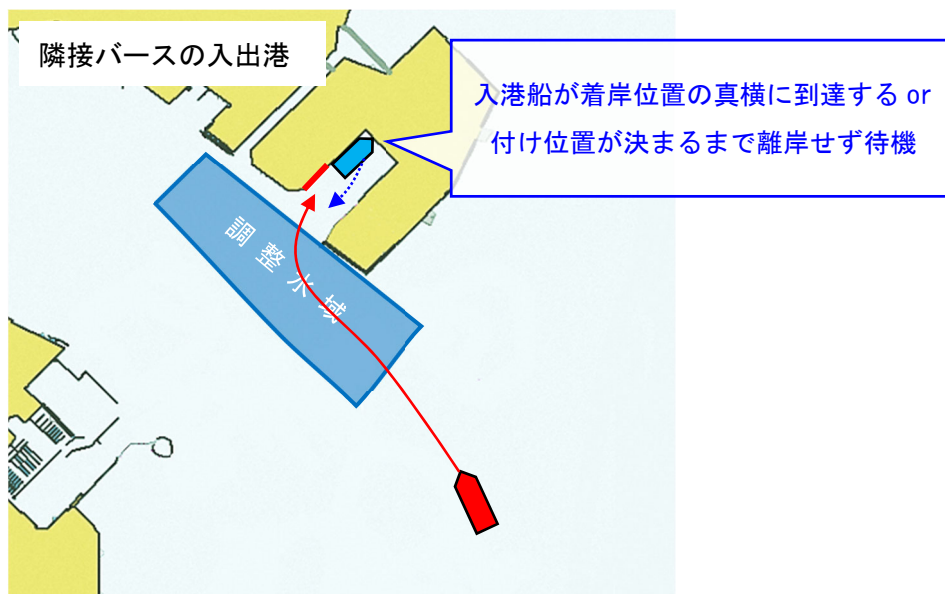
③ 入港船と出港船が競合

- ・原則として、出港船が先行し、出港船が確認事項で定める調整水域を出域後、入港船が入域します。ただし、一万トン未満の内航船同士の場合は、南本牧ふ頭スリップ内で行き会わせないことを原則とし、調整水域内での行き会いは可とする。



図は海上保安庁刊行の航海用電子海図を利用して東洋信号通信社にて作成。本図を航海に用いないこと。

- ・隣接するバースにあっては、原則として入港船が着岸位置の真横に到達するまで、または入港船の着岸位置が決まるまで出港船は離岸しないものとします。



図は海上保安庁刊行の航海用電子海図を利用して東洋信号通信社にて作成。本図を航海に用いないこと。